

# ベランダバードウォッチ 2020 年冬調査報告

バードリサーチ・日本野鳥の会栃木県支部

今年もツバメたちが街中を飛び交う季節になりました。今春は全国的に春の訪れが早く、ベランダからみえる公園の木々もサクラの花から柔らかな新緑に変わってきました。2020 年冬は、12 月中下旬に寒波によって北日本や日本海側の地域に大雪が降り、人々の生活に深刻な問題が生じるほどでした。一方で、今冬は北日本や日本海側での大雪の影響で、ガン類やハクチョウ類が東日本などの水辺に飛来し、野鳥観察者をはじめ一般の散策者の方々の目を楽しませてくれました。さらに、3 月には気温が高い日が続く、サクラの開花もだいぶ早まりました。このような寒波による大雪やその後の気温の高い日が続く冬は、身近な鳥たちの生息状況にどう影響したのでしょうか。以下に、2020 年 10 月から 21 年 2 月末までの冬の調査から身近な鳥たちの記録状況について報告します。

## 調査状況

2020 年冬は、北海道から九州までの合計 72 名によって、家での調査 43 か所、家の周りの調査 54 か所で調査されました。昨年は家での調査が大幅に増加しましたが、今年もほぼ同じ調査地数でした（図 1）。調査地の県を便宜的に 8 区分に分類すると、例年通り関東地方が最も多かったものの、今回も東北地方や北海道を含め 8 区分すべてで実施されました（図 2）。

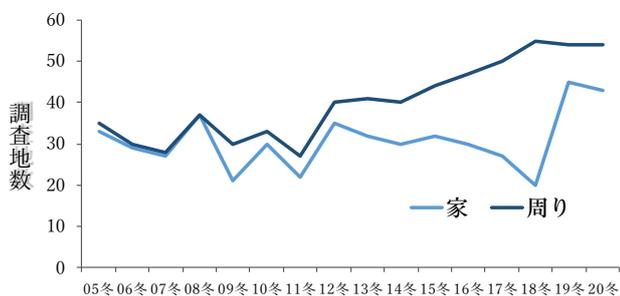


図 1. 調査地数の推移

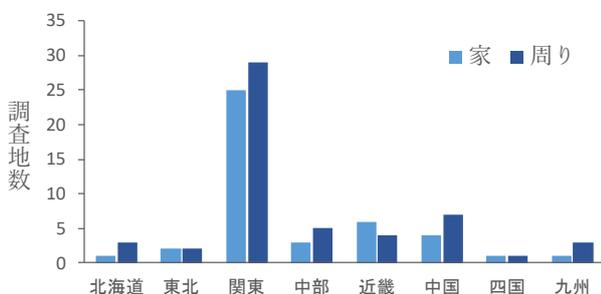


図 2. 2020 年冬の地域別の調査地数の比較

## 記録種

付表に、2020 年 10 月から 2021 年 2 月末（家での調査は 12 月 20 日から）までに記録された種をまとめました。家での調査 66 種、家の周り 112 種、合計 117 種

表1. 2020年と2019年のベランダバードウォッチにおける主要な種と記録率の比較

| No. | 家での調査   |       | 家の周りの調査 |       |         |    |         |    |
|-----|---------|-------|---------|-------|---------|----|---------|----|
|     | 2020年   | 2019年 | 2020年   | 2019年 |         |    |         |    |
| 1   | ヒヨドリ    | 84    | ヒヨドリ    | 84    | ヒヨドリ    | 95 | ヒヨドリ    | 93 |
| 2   | スズメ     | 72    | スズメ     | 71    | スズメ     | 82 | スズメ     | 81 |
| 3   | ハシブトガラス | 55    | ハシブトガラス | 61    | ハシブトガラス | 77 | ハシブトガラス | 76 |
| 4   | メジロ     | 51    | メジロ     | 55    | シジュウカラ  | 75 | ハクセキレイ  | 74 |
| 5   | キジバト    | 46    | ムクドリ    | 50    | メジロ     | 69 | キジバト    | 71 |
| 6   | ハシボソガラス | 40    | ハシボソガラス | 42    | キジバト    | 68 | メジロ     | 68 |
| 7   | ムクドリ    | 37    | キジバト    | 39    | ハクセキレイ  | 66 | シジュウカラ  | 67 |
| 8   | シジュウカラ  | 34    | シジュウカラ  | 35    | ハシボソガラス | 62 | ハシボソガラス | 62 |
| 9   | ツグミ     | 33    | ハクセキレイ  | 25    | ムクドリ    | 61 | ムクドリ    | 61 |
| 10  | ジョウビタキ  | 22    | ツグミ     | 25    | ツグミ     | 52 | モズ      | 48 |
| 11  | ハクセキレイ  | 21    | ジョウビタキ  | 20    | ジョウビタキ  | 52 | ツグミ     | 47 |
| 12  | ドバト     | 18    | ドバト     | 16    | ドバト     | 48 | ジョウビタキ  | 43 |
| 13  | カルガモ    | 15    | カルガモ    | 15    | モズ      | 47 | ドバト     | 42 |
| 14  | ヤマガラ    | 13    | コゲラ     | 11    | コゲラ     | 37 | カワラセビ   | 39 |
| 15  | コゲラ     | 12    | シロハラ    | 11    | ウグイス    | 37 | コゲラ     | 30 |

（種不明を除く）が記録され、記録種数は今年の冬の調査（119 種）とほぼ同じでした。昨年と今年を比べると河川や湖沼に生息する水辺の種や猛禽類でやや記録種が異なるものの、それ以外の種ではその顔触れはほとんど同じです。

両調査とも 20 年冬の記録率上位種の顔触れや順位は昨年とほぼ同じでした（表 1）。どちらの調査もヒヨドリ、スズメ、ハシブトガラスが上位 3 位に位置し、順位も同じでした。家での調査ではメジロ、キジバト、ハシボソガラスが、家の周りの調査ではシジュウカラ、メジロ、キジバトが上記 3 種にそれぞれ続きました。これらから、冬期に市街地周辺に生息する主要な種は、地域や調査年であまり違いがないことがわかりました。身近な場所が調査地のベランダバードウォッチでは、調査地が変わっても記録種はさほど大きく変わらないことが改めて分かりました。

## 家での調査地における留鳥の冬と夏の記録率の比較

ところで、記録種の中には調査地に周年生息している留鳥がいます。これらの鳥では季節によって記録率は変わらないのでしょうか。そこで、20 年の繁殖期と冬

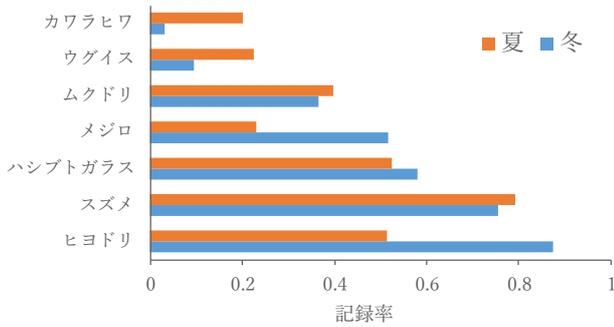


図3. 家での調査における留鳥7種の20年冬と夏の記録率の比較

期の家での調査から、同じ調査地29か所における代表的な留鳥の記録率を比較しました(図3)。その結果、記録率が冬と夏で違いがほとんどない種、冬と夏で大きく違う種がいることが分かりました。前者には、ハシブトガラスやスズメ、ムクドリが、後者にはヒヨドリやメジロ、ウグイス、カワラヒワが含まれます。季節で記録率が違う種のうち、ヒヨドリやメジロは冬の方が夏より記録率が高く、ウグイス、カワラヒワでは逆に夏の方が冬より記録率が高い傾向がありました。こうした種による季節的な記録率の違いの有無は、季節による生息数の変動やさえずりなどの行動により観察されやすさの違いと関係があるのではないかと思います。ハシブトガラスやスズメ、ムクドリは住宅地周辺に1年をとおして個体数が多いことで、調査者に発見されやすく記録率が周年をとおして高いのだと思われます。一方、冬の方が記録率の高いヒヨドリやメジロは、冬には群れで行動することが多く、しかも冬鳥として市街地の庭木に飛来する個体も加わるために、冬には観察されやすく記録率が高くなるのかもしれませんが。夏の方が冬より記録率が高いカワラヒワは、冬に群れで行動するためメジロやヒヨドリと同じように冬に記録率が高そうです。しかし、カワラヒワは植物の種子を食べるため、冬には郊外へ移動することで冬の記録率が低くなるのかもしれませんが。また、ウグイスも冬の方が庭の植込みなどに飛来することが多く、繁殖期より多く記録されそうです。しかし繁殖期に大きな声で囀るために記録されやすい一方で、冬では茂みの中を潜行するために記録されにくいことが考えられます。

### 家の周りの調査による2020年冬の特定種の記録状況

冬期、全国的に人家付近に生息し群れで行動することの多いツグミ、シメ、カワラヒワ、メジロの記録率と

個体数の多寡について2019年と2020年の冬を比較してみました。解析は、両年とも調査が実施された北海道から九州地方の合計25か所のデータに基づいています。

#### ・10日ごとの記録率の推移

図4に4種の10日ごとの各種の19年と20年の記録率の推移を示しました。この図からカワラヒワとシメは、調査時期によって変動するものの両種とも20年冬は19年冬より記録率が低めでした。特に、カワラヒワでは20年の12月以降記録率が2月下旬まで徐々に減少しました。シメでは記録率が交互に変動し、12月上旬にいったん増加したのち12月中旬には減少し、さらに1月上旬から中旬に増加したのち減少しました。一方、ツグミは両年で大きな違いはないものの、20年の方がやや高い傾向が見て取れます。特に、12月中旬から2月上旬には19年より記録率がやや高くなりました。20年のこの時期は日本海側や北日本に大雪が降った時期で、大雪と関係があるのかもしれませんが。一方、メジロの記録率は両年でほぼ違いがなく、同じような季節変動をしました。

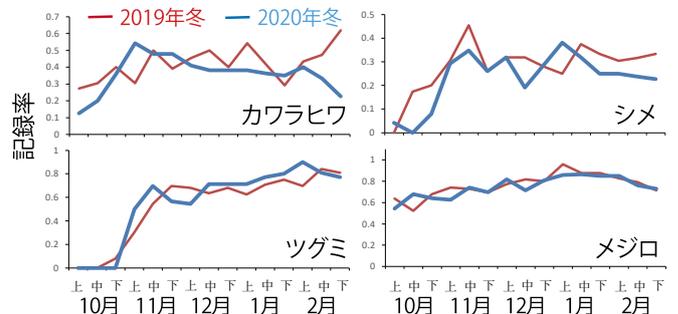


図4. 家の周りの調査における特定4種の20年冬と19年冬の記録率の比較

#### ・両年の個体数ランクの比較

家の周りの調査では、個体数は6段階(時々いる、1-2羽、3-5羽、6-20羽、21-99羽、100羽以上)で10日ごとに報告します。このうち時々いるは個体数の多寡を表していないので、これを除いた5段階の各種の記録回数を19年と20年で比較しました(図5)。カワラヒワの個体数ランクごとの記録回数では、21-99羽と100羽以上のランクで20年の方が19年より多いものの、それ以外の3ランクでは19年の方が多かったことが分かりました。一方、シメでは記録がなかった21-99羽の群れを除く4ランクとも19年より20年の方が記録

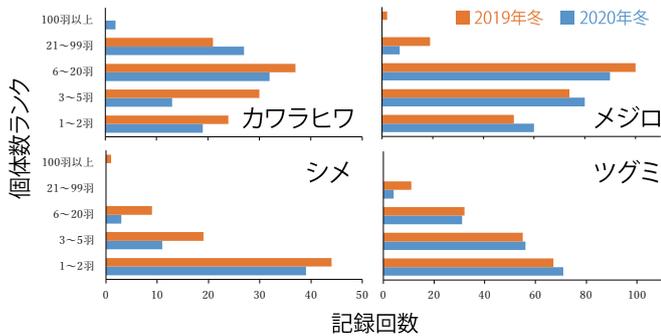


図 5. 家の周りの調査における 4 種の個体数ランクの 2 年間の比較

回数が少ない傾向がありました。ツグミでは 21-99 羽のランクでやや両年の違いが大きいもの、他の 3 ランクではほとんど違いがありませんでした。メジロでは、6-20 羽や 21~99 羽、100 羽以上の個体数の多いランクで 19 年の方が多いう傾向がありました。

これらのことから、シメやカワラヒワでは 20 年の記録個体数は 19 年より少なく、ツグミではあまり違いがなかった可能性が考えられます。メジロでは 21-99 羽と 100 羽以上で 19 年冬の方が多かったものの、違いがあまり顕著でないことから何とも判断できませんでした。

#### ・家の周りの調査からわかったこと

以上のことから、カワラヒワやシメは 20 年冬では 19 年冬に比べて記録個体数が少なく、そのために記録率も低い傾向にあったのかもしれませんが。今回解析に用いた調査地の多くは関東以南の太平洋側に位置します。そのため、この取りまとめを行なう前は、20 年冬の 12 月中下旬や 1 月下旬の北日本や日本海側の大雪の影響で、関東などの調査地では記録率が高くなることが予想されました。しかし、カワラヒワやシメでは必ずしも大雪のあとに記録率が増加する傾向は認められませんでした。これらの種の冬の食物は、植物や樹木の種子です。特に樹木では、種子のなり具合が年によって著しく変動します。とすると、これらの 2 種では、北日本や日本海側の大雪の影響よりカエデ類やケヤキ、ニレなどの樹木の種子の豊凶と関係していたのかもしれませんが。実際に、栃木県宇都宮市の複数の調査地では、今冬のこれらの樹種の種子がほとんど皆無でした。アトリ科の鳥たちの記録率の経年的な変化の理由を明らかにするには、公園や庭木の木の実の生り具合の記録も合わせて調査する必要があると思われます。一方、両年におけ

る記録率の違いが少なかったものの、ツグミでは 20 年 12 月中旬から 2 月上旬にかけて記録率が 19 年冬よりやや高い傾向がありました。ツグミは山地のズミの実などの木の实も食べますが、農耕地などの地上でミミズや昆虫の幼虫なども食べます。本調査で記録率が高くなったのが大雪の降った時期とほぼ一致していたことから、ツグミの今冬の記録率は、山地や北日本などの降雪と関係している可能性があります。

#### 最後に

昨年からの新型コロナウイルスの感染がなかなか終息しない状況が続いています。そのため、以前のように遠くまで野鳥観察に出かけられなくなりました。ただ、鳥たちは私たちの身の回りにも生息しています。珍しい鳥やたくさんの種は生息していません。しかし、ヒヨドリやスズメ、カラス類などの身近な鳥の行動を、観察することで新たな発見があるかもしれません。ベランダバードウォッチは身近な鳥たちを対象とした調査です。コロナ禍の今、身近な鳥たちに目を向けては如何でしょうか。ベランダバードウォッチのようなモニタリング調査は、継続と参加していただく方の多さが調査の命です。ぜひ、今後とも継続してご参加いただけたら嬉しい限りです。20 年冬の調査にご参加いただきました皆様のご芳名を以下に記してお礼に替えさせていただきます。

秋元玲子, 秋山雄大, 渥美美保, 天沼弘勝, 五十嵐勉, 石原あず沙, 石原浩一郎, 石原渉, 泉賢晴, 入船憲一, 植田睦之, 遠藤友美, 大井智弘, 大出水幹男, 大下陽平, 大塚啓子, 沖田絵麻, 尾中潔, 葛西文彦, 加藤美奈子, 川畑紘, 木村元房, 久保賢一, くまのすけ, 黒沢令子, ことりん, 小林俊子, 小堀脩男, 坂田樹美, 笹倉千江花, 佐藤重穂, 佐藤司, 佐藤留美子, 嶋田昌行, 志村光一, 白石ひとみ, 須田由美, ソウザキマユミ, 大門明美, 大門聖, 高路貴子, 高橋佳子, 高山裕子, 滝澤三郎, 武居佳子, 武本陽子, 武谷由紀子, 辰巳文吾, 田中利彦, 寺島栄一, 長嶋宏之, 西川光一, 西田好恵, 丹羽和夫, 浜田早苗, hikimiriver, bootsy, 藤原淳子, 古田和生, 松尾真帆, 三田長久, 宮崎朋子, 森本智子, 安田耕治, 山口裕子, 山崎優佑, 由良禎之, 吉居洋, 吉中康展, 吉邨隆資, 渡邊ケイコの各氏

とりまとめ：平野敏明

付表1.記録種一覧

| No. | 記録種       | 家 | 周り | No. | 記録種     | 家 | 周り | No. | 記録種     | 家  | 周り  |
|-----|-----------|---|----|-----|---------|---|----|-----|---------|----|-----|
| 1   | キジ        | ○ | ○  | 41  | ツミ      | ○ | ○  | 81  | トラツグミ   |    | ○   |
| 2   | マガン       | ○ |    | 42  | ハイタカ    |   | ○  | 82  | クロツグミ   |    | ○   |
| 3   | オオハクチョウ   | ○ |    | 43  | オオタカ    | ○ | ○  | 83  | シロハラ    | ○  | ○   |
| 4   | オカヨシガモ    |   | ○  | 44  | サシバ     |   | ○  | 84  | アカハラ    | ○  | ○   |
| 5   | ヨシガモ      | ○ | ○  | 45  | ノスリ     | ○ | ○  | 85  | ツグミ     | ○  | ○   |
| 6   | ヒドリガモ     |   | ○  | 46  | フクロウ    |   | ○  | 86  | ノゴマ     |    | ○   |
| 7   | マガモ       | ○ | ○  | 47  | トラフズク   | ○ |    | 87  | ルリビタキ   |    | ○   |
| 8   | カルガモ      | ○ | ○  | 48  | カワセミ    | ○ | ○  | 88  | ジョウビタキ  | ○  | ○   |
| 9   | ハシビロガモ    |   | ○  | 49  | アリスイ    |   | ○  | 89  | ノビタキ    |    | ○   |
| 10  | オナガガモ     |   | ○  | 50  | コゲラ     | ○ | ○  | 90  | イソヒヨドリ  | ○  | ○   |
| 11  | コガモ       | ○ | ○  | 51  | アカゲラ    | ○ | ○  | 91  | エゾビタキ   |    | ○   |
| 12  | ホシハジロ     |   | ○  | 52  | アオゲラ    | ○ | ○  | 92  | コサメビタキ  |    | ○   |
| 13  | キンクロハジロ   |   | ○  | 53  | チョウゲンボウ | ○ | ○  | 93  | キビタキ    |    | ○   |
| 14  | カイツブリ     |   | ○  | 54  | ハヤブサ    | ○ | ○  | 94  | スズメ     | ○  | ○   |
| 15  | カンムリカイツブリ |   | ○  | 55  | サンショウクイ |   | ○  | 95  | キセキレイ   | ○  | ○   |
| 16  | キジバト      | ○ | ○  | 56  | モズ      | ○ | ○  | 96  | ハクセキレイ  | ○  | ○   |
| 17  | アオバト      |   | ○  | 57  | カケス     | ○ | ○  | 97  | セグロセキレイ | ○  | ○   |
| 18  | カワウ       | ○ | ○  | 58  | オナガ     | ○ | ○  | 98  | ビンズイ    | ○  | ○   |
| 19  | ゴイサギ      |   | ○  | 59  | カササギ    |   | ○  | 99  | タヒバリ    |    | ○   |
| 20  | アオサギ      | ○ | ○  | 60  | ハシボソガラス | ○ | ○  | 100 | アトリ     | ○  | ○   |
| 21  | ダイサギ      | ○ | ○  | 61  | ハシブトガラス | ○ | ○  | 101 | カワラヒワ   | ○  | ○   |
| 22  | チュウサギ     |   | ○  | 62  | キクイタダキ  |   | ○  | 102 | マヒワ     | ○  | ○   |
| 23  | コサギ       | ○ | ○  | 63  | ハシブトガラ  | ○ | ○  | 103 | ベニヒワ    |    | ○   |
| 24  | クイナ       |   | ○  | 64  | ヤマガラ    | ○ | ○  | 104 | ハギマシコ   | ○  |     |
| 25  | バン        |   | ○  | 65  | ヒガラ     |   | ○  | 105 | ベニマシコ   |    | ○   |
| 26  | オオバン      | ○ | ○  | 66  | シジュウカラ  | ○ | ○  | 106 | シメ      | ○  | ○   |
| 27  | アマツバメ     |   | ○  | 67  | ヒバリ     | ○ | ○  | 107 | イカル     | ○  | ○   |
| 28  | ヒメアマツバメ   |   | ○  | 68  | ツバメ     | ○ | ○  | 108 | ホオジロ    | ○  | ○   |
| 29  | ケリ        |   | ○  | 69  | コンアカツバメ |   | ○  | 109 | カシラダカ   | ○  | ○   |
| 30  | イカルチドリ    |   | ○  | 70  | イワツバメ   | ○ | ○  | 110 | ミヤマホオジロ |    | ○   |
| 31  | コチドリ      |   | ○  | 71  | ヒヨドリ    | ○ | ○  | 111 | アオジ     | ○  | ○   |
| 32  | ヤマシギ      |   | ○  | 72  | ウグイス    | ○ | ○  | 112 | オオジュリン  |    | ○   |
| 33  | タシギ       |   | ○  | 73  | エナガ     | ○ | ○  | 113 | コジュケイ   |    | ○   |
| 34  | クサシギ      |   | ○  | 74  | メジロ     | ○ | ○  | 114 | ドバト     | ○  | ○   |
| 35  | イソシギ      |   | ○  | 75  | セッカ     |   | ○  | 115 | ホンセイインコ | ○  | ○   |
| 36  | オジロトウネン   |   | ○  | 76  | キレンジャク  | ○ | ○  | 116 | ガビチョウ   |    | ○   |
| 37  | ユリカモメ     |   | ○  | 77  | ヒレンジャク  | ○ |    | 117 | ソウシチョウ  | ○  | ○   |
| 38  | ミサゴ       |   | ○  | 78  | ゴジュウカラ  |   | ○  |     | 種数      | 66 | 112 |
| 39  | ハチクマ      |   | ○  | 79  | ミソサザイ   |   | ○  |     |         |    |     |
| 40  | トビ        | ○ | ○  | 80  | ムクドリ    | ○ | ○  |     |         |    |     |